

環境農業新聞

メール:ecoagri@pure.ocn.ne.jp

毎月15日発行 平成13年4月17日 第三種郵便物認可

発行所 環境農業新聞社 編集発行人 成瀬一夫 東京都葛飾区東金町1-41-9

主な記事 ○元氣農業セミナー.....(1面) ○ドラービーmini発売.....(3面) ○由井代表の講演内容.....(4,5面) ○ルボ:黄化葉巻病を克服.....(8面)

日本農業のビッグ バイ・とこの対応策

熱気溢れるセミナーに

西郷研究、基調講演で 研究開発 推進方向

盛り沢山の新技术を発表

NPO法人元氣農業開発機構 古瀬洋一郎理事長・東京都葛飾区東金町1-41-9、電話03(3802)5212は6月5日午後1時より東京・港区の港区立エコープラザ大会議室において時局セミナー「日本農業のビッグ・バンとその対応策」を開催した。

由井寅子日本豊受自の講演に感動

NPO法人元氣農業開発機構

セミナーは坂本幸資同 機構副理事長の開会の辞で始まったが、坂本副理事長は「今日は中身の濃い内容を持って開催します。参加して良かったというセミナーになれば幸いです」と述べた。そして「これを切にお願いします」と述べた。



セミナーで挨拶する古瀬理事長



基調講演する西郷研究総務官



特別講演する由井代表

水産・食品産業研究を巡る最近の動き、我が国の抱える課題に取り組むプロジェクト研究、新たな産業の創出と地域の抱える課題の解決を推進する競争的研究資金、農林水産・食品産業研究の今後の推進方向について具体的な話が多々聞かれた。また、多段ポット栽培中心に行う農業生産法人を作ってやろうとして農業分野は障壁があまりにも多く四苦八苦している現状を述べた。

次に6次産業化、地域活性化に役立つ新技術の紹介では、農業者自ら土壌分析が出来る簡易土壌分析器の開発について、合同会社土づくり推進機構・麦島昌代表。

「農林水産省が行っている技術政策を体系的に聞くことが出来て良かった。これまで知らなかった話も多くためになった」と感想を述べていた。

「ネーミング(名前をつけること)には広がりがある。話のテーマ、視野に入れたこのコラムの連載題名も、周知の年次から執念への広がり、今年創業80周年の「鉄道弘済会」にも及ぶ兆し。

た液体のレメディーを使った土壌になつては現状を救う。セミナー30Cのレメディーは、10Cの60葉まで高希釈されているため、全ク物質が含まれていない。その桃を由井代表が皮ごとかぶりつく姿に「豪快だね(笑)」という言葉も発せられていた。

「最後に地震災害時に必要な「非常用簡易トイレ」をA&S・メキシコンの杉山所長が説明し、農村での女性トイレにも活用して頂ければと語った。

「今後とも一層のご支援頂けますようお願いし閉会とします」と挨拶した。以上のような姓名の「P」はパブリック・リレーションズ、裏を返せばパーソナル・リレーションズではないかと、語「弘報」とを使い分け

視点

接点

(23)

広報から弘報へ

「視点・接点」ジャーナリスト 志村弘雄

「弘報」として紹介された私の「環境・弘報」は「公報」(個人と物)を大切にしているのは「弘報」という考え。一例として引用の弘済会は格好の範例。